1996 (平成 8) 年の日本の天候の特徴

垣 花 和 夫

(気象庁総務部産業気象課)

Weather of Japan in 1996

Kazuo KAKIHANA

(Japan Meteorological Agency, Otemachi, Tokyo, 100 Japan)

1. 天候経過の概要と特徴

1996 年の日本の天候の特徴は次のとおりである。

①北海道は 8 年連続の暖冬, その他の地方は平年並の冬, ② 4 月～5 月は全国的な低温(図 1), 近畿や東海地方を中心に少雨, 北日本と南西諸島は寡照(表 1), ③梅雨の時期の降水量は全般的に平年並(表 2), ④ 6 月～8 月の北日本は低温・寡照, 東日本の太平洋側と南西諸島は少雨(表 1), ⑤ 9 月～11 月は西日本で少雨。

図 2 は年間の平均気温, 降水量及び日照時間の平年差(比)図である。平均気温の平年差は全般に小さかった。降水量は北海道や関東地方の一部を除くほとんどの地域で平年より少なかった。日照時間は北日本や中国地方で

平年より少なく, その他の地方では多かった。

2. 季節の特徴

2.1 冬(1995 年 12 月～1996 年 2 月): 北海道を除いて平年並の冬, 太平洋側で少雨

北日本や関東地方の一部で平年より高く, 特に北海道では平年より 1.5℃ 以上高いところがあった。北海道は 8 年続きの暖冬となった。降水量は北海道や日本海側の一部を除いて全国的に平年より少なく, 特に東北地方の太平洋側, 関東地方, 東海・近畿・四国・九州地方の一部では平年の 40% 以下となった。日照時間は日本海側の地方を中心に平年より少なく, その他の地方では多かった(図 3)。

図 1 1996 年の地域平均気温平年差の 5 日移動平均時系列図

陰影部分は平年値より低い部分

表1 1996年1～12月の平均気温、降水量(雪)、日照時間が統計開始以来の記録を更新した地域とその官署数
ただし、統計年数10年以上の官署(気温と降水量は149、日照時間は150)

	高 温	低 温	多 雨(雪)	少 雨	多 照	寡 照
1月			近畿の一部 1		沖縄の一部 1	
2月			降雪：東・西日本 4 積雪：中国の一部 1			
3月			東北、関東の一部 2			
4月		東北の一部 関東、東海、伊豆 諸島、西日本 34	降雪：北日本、北陸 8 積雪：北陸 3	北海道、関東、甲信 伊豆諸島、東海 近畿、中国 24	東海、近畿 6	
5月		北海道、南西諸島 小笠原諸島 6	北海道、南西諸島 3	四国の一部、九州 3	九州 5	東北の一部 小笠原諸島 2
6月	九州 6		中国の一部 1	関東、伊豆諸島 近畿、南西諸島 6		
7月			関東の一部 1	中国、南西諸島の 一部 2		北海道 2
8月				東北の一部、関東 3		
9月	南西諸島の 一部 1		関東、南西諸島の 一部 2			
10月			北海道の一部 1	東北、九州 6		
11月	南西諸島 5		降雪：九州 2			東海、中国、九州 5
12月			近畿の一部 1 降雪：中国、九州 の一部 2 積雪：九州の一部 1	小笠原の一部 1	東北、東海、近畿 伊豆・小笠原諸島 四国、南西諸島 17	

降雪：降雪の深さの月合計値、積雪：月最深積雪

表2 1996年の梅雨入り・明け及び梅雨の時期の降水量

地 域 名	梅 雨 入 り		梅 雨 明 け		梅雨の時期の降水量 ()内は平年比
	1996年	平 年	1996年	平 年	
沖 縄	4月下旬後半	5月中旬前半	6月上旬後半	6月下旬前半	那 覇 497.0mm (98 %)
奄 美	4月下旬後半	5月中旬前半	6月下旬前半	6月下旬後半	名 瀬 410.5mm (57 %)
九州南部	5月下旬後半	6月上旬前半	7月中旬前半	7月中旬前半	鹿児島 938.0mm (133 %)
九州北部	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	福 岡 457.0mm (89 %)
四 国	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	高 松 311.5mm (106 %)
中 国	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	広 島 388.5mm (- %)
近 畿	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	大 阪 398.0mm (110 %)
東 海	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	名古屋 311.5mm (72 %)
関東甲信	6月上旬後半	6月上旬後半	7月中旬前半	7月中旬後半	東 京 289.5mm (93 %)
北 陸	6月上旬後半	6月中旬前半	7月中旬後半	7月下旬前半	新 潟 265.0mm (89 %)
東南北部	6月上旬後半	6月中旬前半	7月下旬前半	7月下旬前半	仙 台 243.0mm (86 %)
東北北部	6月中旬前半	6月中旬前半	8月上旬後半	7月下旬後半	青 森 203.5mm (110 %)

梅雨の時期の降水量としては6～7月の2か月の降水量を示す。ただし、那覇と奄美については5～6月の降水量である。(広島は移転のため平年比がない)

12月：冬型の気圧配置の日が多く時々強い寒気が入り、日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、一方太平洋側では少雨・多照となった。

1月：中旬は移動性高気圧に覆われ晴れの日が多く、月平均気温は全国的に平年を上回り、太平洋側を中心に少雨となった。特に関東地方などでは平年の40%以下の所があった。

2月：上旬は強い冬型の気圧配置の影響で全国的に気温が低く、中旬は南高北低の気圧配置の影響で全国的に

高くなるなど寒暖の変動が大きかった。また、中旬から下旬にかけ強い寒気が入り北日本を中心に大雪となった。

2.2 春(3月～5月)：全国的に低温、北日本と南西諸島は寡照

3月の気温はほぼ平年並だった。しかし、4月は冬型の気圧配置で寒気が入ることが多く全国的に、また5月は北日本と南西諸島で低温となった。東・西日本では少雨、北日本や南西諸島では寡照となった(図4)。

3月：低気圧や前線の影響で天気は短い周期で変わり、

図2 1996年の年間の平均気温、降水量、日照時間の年平均差(比)図

陰影部分は平年値より低い部分

ほぼ全国的にまとまった降水となった。気温は平年並となった。

4月：上・中旬は冬型の気圧配置の日が多く強い寒気が南下し、全国的に気温の低い状態が続いた。降水量も全国的に少なく、北海道から中国地方にかけては平年の40%以下となる所が多かった。

5月：北日本では上・中旬に寒気を伴った低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受け気温が低く、曇りや雨または雪の日が多くなった。前月下旬後半に梅雨入りした南西諸島でも低温、多雨、寡照となった。

2.3 夏（6月～8月）：北日本は低温・寡照、東日本の太平洋側と南西諸島で少雨

北高型の気圧配置となることが多かった北日本では、冷たい北東気流の影響を受け気温が低く寡照となった。一方、東日本の太平洋側と太平洋高気圧に覆われた南西諸島では少雨となった(図5)。

6月：オホーツク海高気圧の影響を受けた北日本では気温が低く寡照となった。九州から東北地方は上旬～下旬にかけてほぼ平年並みに梅雨入りし、梅雨の明けた南

西諸島を除いて全国的に曇りや雨の日が多くなった(表2)。一方、東日本の太平洋側では降水量が少なく、関東地方では平年の40%以下の所もあった。

7月：太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多く、九州から東北部まで上～下旬にかけて梅雨明けし、日本海側を中心に少雨となった。

8月：北・東日本ではオホーツク海高気圧の影響で、曇りや雨の日が多く気温が低くなった。一方、西日本は晴れて暑い日が続いた。

2.4 秋（9月～11月）：北日本や西日本で少雨、東日本で多雨

10月半ばまで太平洋高気圧の勢力は弱く、秋雨前線の活動は不活発で関東・甲信地方を除くほとんどの地域で少雨となった。10月下旬から11月上旬は太平洋高気圧の勢力が強まり気温が高くなった。特に九州～南西諸島ではかなり高くなった(図6)。

9月：降水量は低気圧の影響を受けた北海道と、台風の影響を受けた東北部から関東地方や南西諸島が多かった。気温は北海道や九州で高く、その他の地方では低

図3 冬期間(1995年12月～1996年2月)の平均気温, 降水量, 日照時間の平年差(比)図

図4 春期間(1996年3月～5月)の平均気温, 降水量, 日照時間の平年差(比)図

図5 夏期間(1996年6月～8月)の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)図

図6 秋期間(1996年9月～11月)の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)図

図7 1996年に日本付近に影響した主な台風の経路図

○内の数字は台風番号、実線は台風の経路、破線は弱い熱帯または温帯低気圧時の経路を示す。
白丸、黒丸はそれぞれ09時と21時の位置を、数字は日付と中心気圧を示す。
左上は南西諸島付近の拡大図である。

かった。

10月：移動性高気圧の中心が本州中部を通ることが多く、東日本では晴れの日が多かった。下旬は一時的に冬型が強まった。降水量は低気圧や前線の影響を受けた北日本の日本海側や、近畿地方、南西諸島以外の地方で少なかった。

11月：上・下旬は高く、中旬は冬型が強まり寒気が入るなど、気温の変動が大きかったが、北海道を除いてほぼ全国的に平年より高くなった。降水量は前線の影響を受けた東日本で多かった。

3. 台 風

1996年の台風の発生数は26個(平年値27.8個)で、ほぼ平年並みであった。日本への接近数は10個(平年値11.0個)で、上陸数は2個(平年値2.8個)であった。

図7は日本付近に影響した主な台風の経路図である。7月には第5号が小笠原・伊豆諸島、東・北日本に、第6号が南西諸島、西日本に、第9号が南西諸島に接近し

た。その内第6号は鹿児島県薩摩半島南部に上陸した。

8月には第12号が沖縄本島を通過、熊本県熊本市付近に上陸、山口県徳山市付近に再上陸、佐渡島を通過、新潟県村上市付近に再々上陸するなど、ほぼ全国的に影響を及ぼした。9月には第17号が南西諸島、東・北日本に、第21号が南西諸島、小笠原諸島に接近した。

4. 生物季節観測

表3は1996年の主な生物季節観測一覧である。

冬：ウメ、ツバキの開花があり、平年並〜かなり遅かった。

春：4月、5月とも上・中旬に低温となった。この影響でサクラの開花や満開は平年並〜やや遅くなった。また、モンシロチョウの初見は平年並〜かなり遅くなった。

夏：アジサイの開花は平年並〜かなり遅く、サルスベリの開花は平年並〜かなり遅く、アブラゼミの初鳴は平年並〜やや遅くなった。

秋：ススキの開花は平年並〜かなり遅く、イチョウや

表3 1996年の主な生物季節観測

種目・現象			観測地点・発現日（平年差）					
			札幌	仙台	東京	大阪	福岡	那覇
植 物	ウ	メ 開花	5/ 2(－ 4)	3/14(+10)	1/29(－ 4)	2/21(+ 8)	2/10(+ 5)	1/ 9()
	ツ	バ キ 開花		3/24(－ 6)	1/17(－22)	*3/21()	2/18(+21)	1/11()
	サ	ク ラ 開花	5/ 5(0)	4/17(+ 3)	3/31(+ 2)	3/31(－ 1)	3/23(－ 5)	1/25(+ 9)
		満開	5/12(+ 3)	4/24(+ 5)	4/ 7(0)	4/ 9(+ 2)	4/ 1(－ 3)	2/ 2(0)
	ア	ジ サ イ 開花	7/23()	7/ 2(+ 4)	6/10(+ 6)	6/12()	*6/15(+ 3)	
	サル	ス ベ リ 開花		8/12(+ 1)	7/22(+ 5)	7/26()	8/ 4(+ 8)	6/21(－ 1)
	ス	ス キ 開花		8/16(－10)	*9/20(+14)	9/20()	9/30(+ 9)	10/18(+12)
	イ	チ ョ ウ 黄葉		11/18(+12)	11/ 7(－11)	11/22(+ 8)	11/18(+16)	
動 物	カ	エ デ 紅葉	10/24(+ 6)	11/18(+ 6)	11/15(－13)	12/ 3()	11/26(+15)	
	ウ	グ イ ス 初鳴		3/12(－ 6)			3/ 3(－ 4)	2/ 5(－18)
	モン	シロチョウ 初見	*5/29(+33)	4/15(+10)		4/ 2(+ 2)	3/25(+ 9)	
	ア	ブラゼミ 初鳴		7/31(+ 9)	7/22(－ 6)	7/23(+ 3)	7/19(+ 8)	6/12(－ 1)

*は最晩記録を表す。平年差の符号は－は早い，＋は遅い。空白は平年値がないことを表す。
発現日がないのは観測されなかったことを表す。

表4 1996年の農業気象災害（農業被害10億円以上）

月 日	気 象 災 害 名	被 害 地 域	山崖崩れ カ所	堤防決壊 カ所	耕地流失 ・埋没 ha	耕地冠水 ha	農業被害 万円
3/14～3/15	強風，落雷，山崖崩れ	九州，北陸	2				106,850
4/ 1～4/30	凍霜	関東，近畿，九州					225,841
5/15～5/28	強風，ひょう，落雷，山崖崩れ 土石流	九州，四国，中国，近畿 中部	2				584,246
6/24～7/ 3	浸水，山崖崩れ，洪水，浸水， 強雨，強風，ひょう，落雷	東日本，西日本	104	21	1	225	249,216
7/ 1～7/ 3	落雷，ひょう，強風，強雨， 浸水	関東・甲信，北陸，東北 北海道					808,067
7/15～7/31	ひょう，落雷，強雨，浸水	関東・甲信					785,650
7/17～7/21	強風，浸水，山崖崩れ，強雨， 落雷	西日本，東海，関東	40			7	7,176,118
8/10～8/16	強風，浸水，山崖崩れ，洪水， 落雷，強雨	西日本，中部，北日本	34	2	44		1,770,895
8/26～8/31	山崖崩れ，洪水，浸水，落雷	九州，近畿	54		995	64	264,855
9/20～9/24	強風，山崖崩れ，強雨，浸水， 土石流	近畿，中部，関東， 北日本	391	287		309	1,138,157
6/ 3～7/29	干害	南西諸島					172,575

カエデの紅(黄)葉は平年並～やや遅くなった。

5. 農業気象災害

表4に農作物の被害が10億円以上あった農業気象災害の概要を示す(異常気象・気象災害一覧より)。

水稻は北海道，東北，北陸で田植え期以降7月までの低温と日照不足の影響によって初期生育が抑制されたが，出穂期以降おおむね天候に恵まれ，後期登熟が良好となった。